令和８年度　全国学力・学習状況調査 調査結果分析レポート

1. 教科・技能別 平均正答率の比較

練馬区立大泉西中学校（生徒数：161 名）における各教科・技能の平均正答数および平均正答率は、国語・数学で東京都公立平均と同等以上、全国公立平均を明確に上回る良好な結果となっています。

教科・技能	本校（大泉西中）	東京都（公立）	全国（公立）
国語（全 15 問）	68.0%	68.0%	63.9%
数学（全 16 問）	63.0%	62.0%	57.0%
英語 全体（全 7 問）	58.6%	61.4%	52.9%
└ 聞くこと（全 2 問）	60.0%	65.0%	60.0%
└ 読むこと・書くこと（全 5 問）	56.0%	58.0%	50.0%

英語領域（全体および「読むこと・書くこと」）では、全国平均と比べて６ポイントと大きく上回っています。

2. 正答数・習熟度（IRT バンド）の分布状況

① 国語（全 15 問）

・本校の特徴: 15 問中 13 問正答の生徒が 18.0%と最も多く、10 問～14 問の高正答帯に生徒が多く分布しています（中央値 11.0 問）。

・分布の比較: 東京都公立（12 問 13.0%、13 問 12.8%）および全国公立（12 問 11.8%）の最頻値帯と比較しても、本校は 13 問正答ラインに顕著なピークを形成しており、全体として非常に高い習熟度を示しています。

② 数学（全 16 問）

・本校の特徴: 12 問正答（11.8%）および 13 問正答（10.6%）を中心に分布しています（中央値 11.0 問）。

・分布の比較: 東京都公立（14 問 10.4%、15 問 9.8%）は最上位帯にも大きな山がありますが、本校は中高得点帯全般に安定して広く分布しています。

③ 英語 3 技能（IRT バンド 1:低 ～ 5:高）

英語３技能の調査では、能力の尺度化を行うため IRT（項目反応理論）に基づく「IRT スコア」および５段階の「IRT バンド」が用いられています。本校の平均 IRT スコアは 511 点（東京都 530 点、全国 499 点）となっています。

IRT バンド	本校（割合）	東京都（公立）	全国（公立）
バンド 5（高）	3.7%	9.2%	5.9%
バンド 4	26.1%	30.1%	22.7%
バンド 3	44.7%	37.5%	38.4%
バンド 2	23.0%	20.2%	28.2%
バンド 1（低）	2.5%	2.9%	4.7%

・本校の習熟度構造: 本校は「バンド 3（44.7%）」に最も多くの生徒が属する標準～中高能力層の厚い構造です。上位の「バンド 4・5」を合わせた割合は 29.8%で、全国公立（28.6%）を上回っています。
・低位層の少なさ: 「バンド 1（低）」の割合は 2.5%にとどまり、全国公立（4.7%）と比べて学習上の課題を抱える生徒の割合が小さく抑えられています。

3. 補足解説：IRT（項目反応理論）および IRT バンドとは

全国学力・学習状況調査の英語調査等で導入されている、IRT（Item Response Theory：項目反応理論）および IRT バンドの仕組みと意義についての解説です。

① IRT（項目反応理論）とは
・従来のテストのような「素点（単なる正答数）」による評価ではなく、「各設問の難易度や識別力（問題の特性）」を考慮して、受験者の能力値を統計的に推定するテスト理論です。
・単なる正答数による比較の限界を克服: 難しい問題に正解した場合と易しい問題に正解した場合を区別し、より正確な英語力（熟達度）を測定できます。
・テスト間の等化（イークエイティング）が可能: 実施年度や出題問題が異なる場合でも、共通の尺度（スコア）で能力を公平かつ正確に比較・追跡することができます。

② IRT バンドとは
推定された連続的な能力値（IRT スコア）を、**生徒の英語習熟度レベルに応じて 5 つの段階（バンド 1～5）に区分したもの**です。

IRT バンド	習熟度・熟達度の位置づけ概略
バンド５（最高位）	発展的な英語課題をスムーズに解決でき、極めて高い熟達度を示す層
バンド４（高位）	基幹的な英語の知識・技能をしっかり活用でき、安定した応用力を発揮する層
バンド３（中位）	標準的な中学校レベルの英語課題に対応できる、平均的かつ中心的な習熟層
バンド２（やや低位）	基本的な問題には対応できるものの、応用・複合的な課題に一部課題がみられる層
バンド１（低位）	基礎的・基本的な英語の理解・技能に課題があり、継続的な個別サポートが望まれる層

４　成果と課題について

①　成果

昨年度（令和７年度）に作成した「授業改善推進プラン」を基に考察する。

国語科では生徒自身がテーマを決めたグループワークを積極的に取り入れることで、生徒がどのようなことを書けばいいのか他の生徒から学ぶ機会を設けた。その結果、生徒が積極的に意見交換の活動へ取り組むことで、「表現工夫の記述」が東京都及び全国の平均を上回ったと考えられる。

数学科では、話合い活動の際には、計算過程や根拠となる事柄を明確に説明できるよう指導に力を入れてきたことで、説明・記述、証明記述の正答率が東京都及び全国の平均を上回ったと考えられる。

英語科では、「読むこと」、「書くこと」の正答率が全国平均を上回った。これは、各単元の目標を達成するために、書いて表現する活動を多く取り入れ、それに伴い正しい情報を得るために読むことの能力も高まったと考察できる。

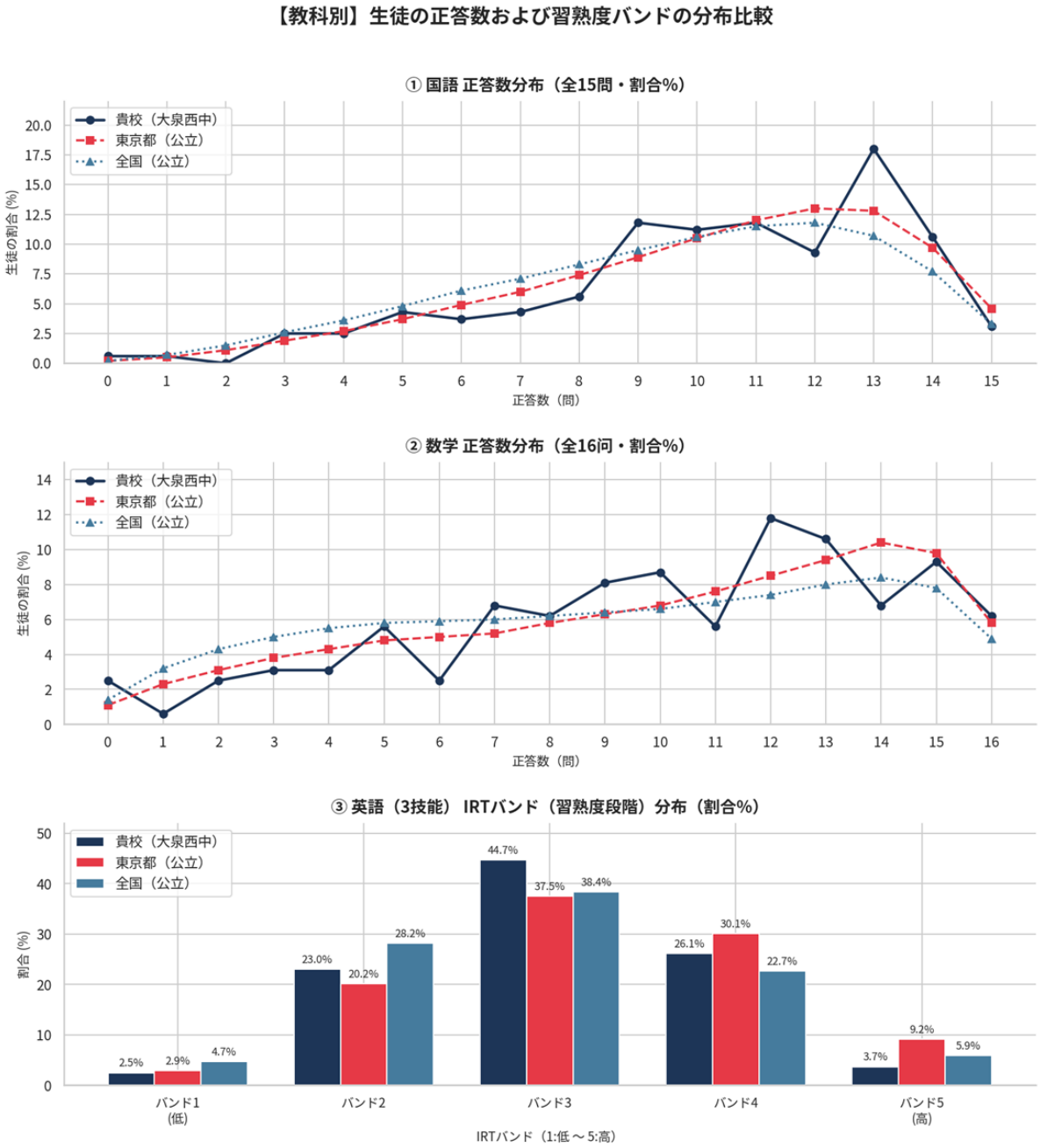
②　課題

国語科、数学科ともに基礎的な問題について課題がある。今後も授業改善に努めるとともに、知識・技能の定着を図るために、家庭学習でも繰り返し課題に取り組むなど、学習習慣の充実に努める。

英語科については「聞くこと」の正答率が東京都平均を下回っていることから、正しい発音を身に付けさせて、聞く力を高めたり、毎授業でリスニングの練習に取り組んだりするよう授業の工夫を実践していく。

授業の初めに既習事項の確認を行ったり、授業のめあてを確認し、授業のまとめでめあての達成度を振り返る時間を設けたりするなどして、基礎・基本の確実な定着を目指す。

5　正答数分布と習熟度バンド分布について



6　全国学力・学習状況調査 出題概要一覧

■ 国語（全 15 問）

1-1: 「可能」の意味を含んでいる表現の選択
1-2: 「投げられる」の文法的意味の説明の選択
1-3: 「ら抜き言葉」に該当する表現の選択
2-1: 話合いの中での発言趣旨の説明の選択
2-2: 発言内容を的確に捉えた説明の選択
2-3: 話合いの整理用画面（タブレット）の説明の選択

2-4: 話合いを踏まえた自分の意見と理由の記述
3-1: 用例・意味に基づく漢字の書き（「採る」）と選択
3-2: 気持ちがより伝わる表現工夫の記述
3-3: 文章展開における書き手の意図の説明の選択
3-4: 文章の交流を踏まえた評価・改善点と今後の活用の記述
4-1: 文章全体の三段階構成の整理・選択
4-2: 同義表現（「ほうふつとさせる」等）の抜き出し
4-3: 会話における擬音語・擬態語の特徴の選択
4-4: 擬態語「きっぱり」の具体的な様子と効果の記述

■ 数学（全 16 問）

1: 最高気温と最低気温の差（正負の数の計算）
2: 多項式からの同類項の抽出
3: 四角形の平行条件となる錯角・同位角の指定
4: 反比例の表における y の値の計算（x=−3）
5: 2 つのさいころの目の出方と確率の計算
6(1): 条件を満たす 2 数の性質を示す計算式の記述
6(2): 予想がいつでも成り立つことを説明する方針の選択
6(3): 文字式の計算結果の規則性の説明・記述
7(1): 動画時間とデータ量の関係を表すグラフの座標読み取り
7(2): データ量 1000MB 到達時間を求める方法の説明・記述
8(1): 角の二等分線の角度を表す文字式（a を用いた式）の記述
8(2): 三角形の合同条件を用いた角度の等しさの証明記述
8(3): 証明の前提（仮定）となる辺や角の関係の選択
9(1): 睡眠時間度数分布表の累積度数の計算
9(2): 箱ひげ図からの正しい読み取りの選択　※箱ひげ図とは統計で用いるグラフの一種
9(3): 度数分布多角形の比較に基づく傾向（睡眠時間）の分析記述

■ 英語 3 技能（全 16 設問）

1: 【聞く】注文場面での店員と客の会話を聞き、注文品を選択
2: 【聞く】ショッピングセンターのアナウンスを聞き、行くべき階を選択
3: 【聞く】学校見学の説明を聞き、訪問場所を選択
4: 【聞く】職場体験の発表を聞き、体験した順を示す絵を選択
5: 【聞く】住みやすいまちづくり発表を聞き、最も伝えたいことを選択
6: 【読む】学校行事に関する文章を読み、グラフの空所に該当する行事を選択
7: 【読む】誕生日パーティーの案内メールを読み、適切な時刻を選択
8: 【読む】メッセージを読み、相手の条件に合うウェブサイトを選択
9: 【読む】物語を読み、登場人物の気持ちの変化を表すものを選択
10(1): 【読む】ネット利用の文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択
10(2): 【読書】ネット利用への考えとその理由を記述
11①: 【書く】与えられた情報に基づく留学生の出来事の説明記述（規則動詞過去形）
11②: 【書く】与えられた情報に基づく留学生の出来事の説明記述（不規則動詞過去形）
12: 【書く】中学での思い出と感想の自由記述（15〜30 語）
13: 【書く】留学生との交流会で一緒にしたいことと理由の自由記述
14: 【書く】日常の学校生活とそれについての説明の自由記述

生徒質問回答結果 集計分析レポート

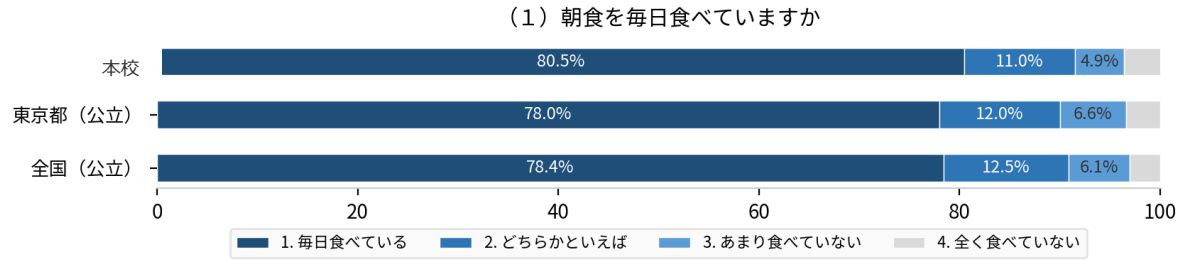
■ 本調査分析の概要

この分析は、令和８年度全国学力・学習状況調査において実施された生徒質問紙調査の回答結果に基づき、本校の傾向を東京都（公立）および全国（公立）の平均データと比較・分析したものです。５つのテーマ（①日常生活、②自己肯定感、③人間関係、④学習習慣、⑤ICT 機器の活用）について、設問項目に対する集計数値とコメントをまとめています。

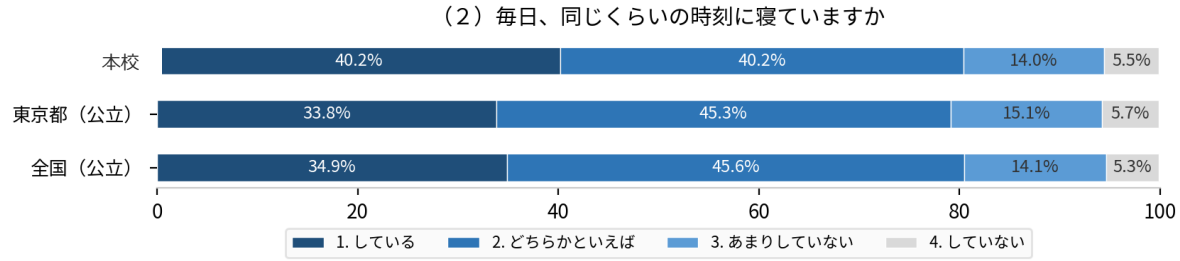
① 日常生活について

基本的生活習慣（朝食の摂取、就寝時刻、起床時刻）に関する集計結果です。

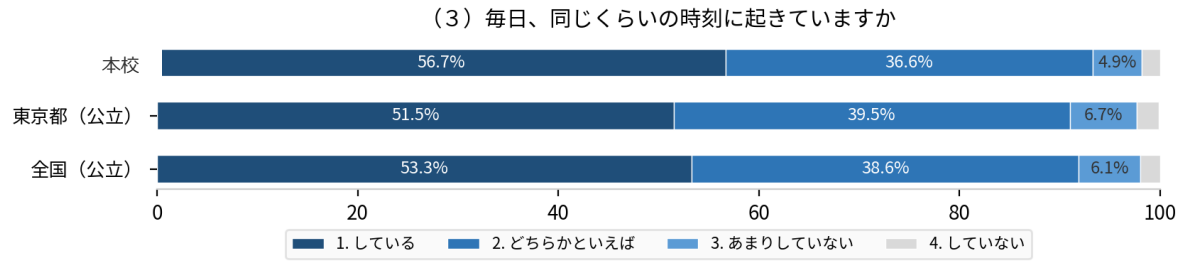
○ 朝食を毎日食べていますか



○ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



○ 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



【分析】

○ 朝食の毎日摂取割合：「毎日食べている」生徒の割合は 80.5%であり、東京都平均（78.0%）および全国平均（78.4%）を上回っており、良好な状態です。

○ 就寝時刻の規則性：「毎日同じくらいの時刻に寝ている（肯定群）」割合は、80.4%（「している」40.2% ＋「どちらかといえば」40.2%）に達し、東京都（79.1%）や全国

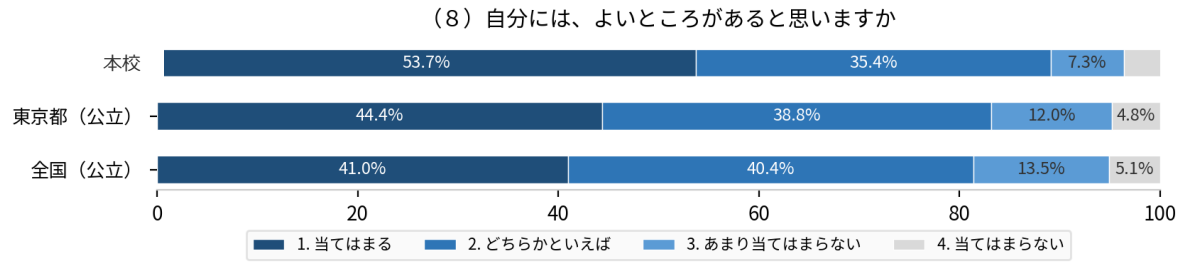
（80.5%）と比較しても上回っており、「している」割合が 40.2%（都: 33.8%, 全国: 34.9%）と顕著に高い特徴があります。

○ 起床時刻の規則性：「毎日同じくらいの時刻に起きている」割合も 56.7%と高く、全体として基本的生活習慣が定着していることが伺えます。

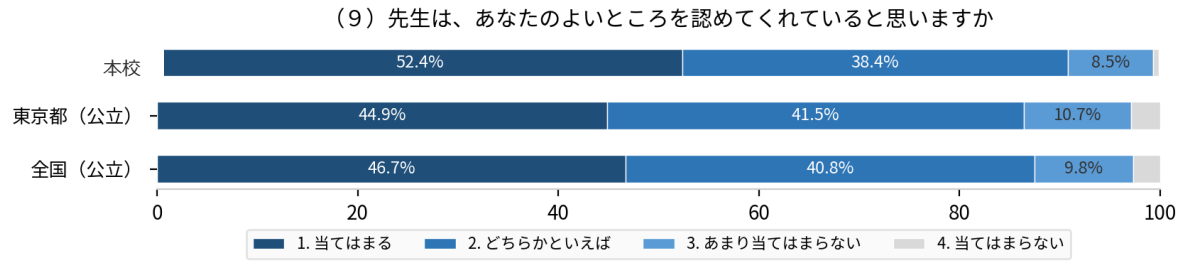
② 自己肯定感について

自認する自己価値、教員からの承認実感、将来への夢・目標、社会貢献意欲についての回答結果です。

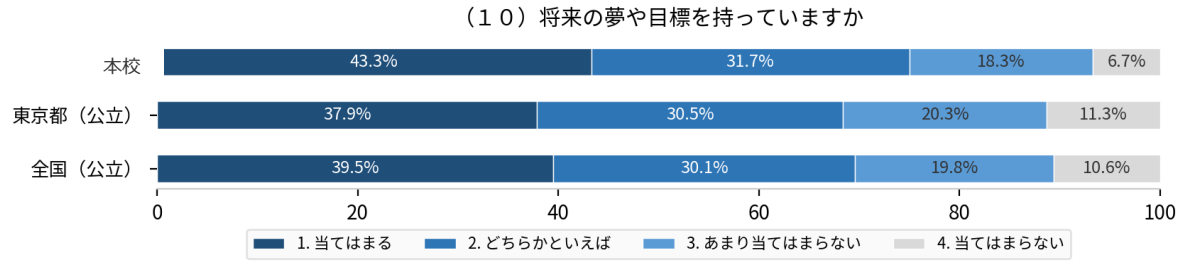
○ 自分には、よいところがあると思いますか



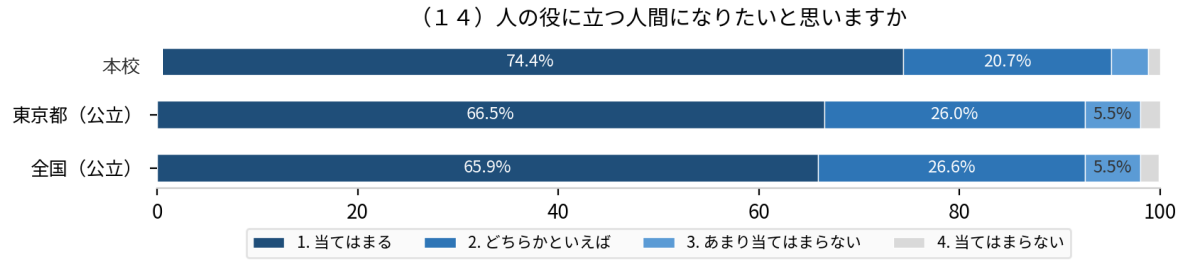
○ 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



○ 将来の夢や目標を持っていますか



○ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



【分析】

○ 自己肯定感：「自分には、よいところがあると思う」に対して「当てはまる」と回答した生徒が 53.7%に達し、東京都平均（44.4%）および全国平均（41.0%）を 10 ポイント以上大きく上回っています。

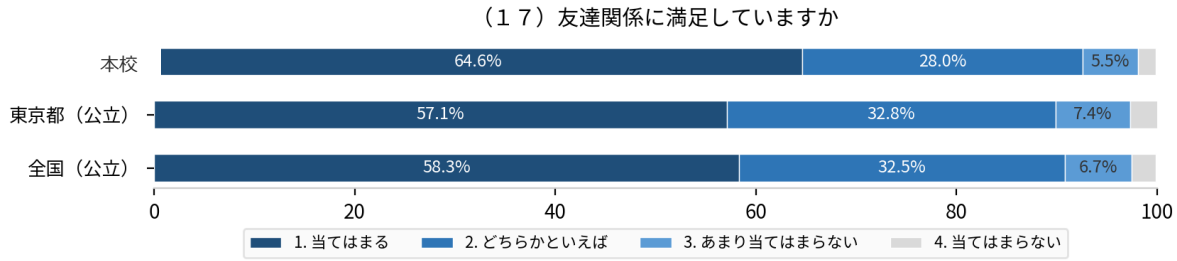
○ 教員からの承認と信頼：「先生が自分のよいところを認めてくれている」との問いにも 52.4%が肯定（都: 44.9%, 全国: 46.7%）しており、教員との良好な関係性が自己肯定感を支えていることが分かります。

○ 将来目標と社会貢献意識：「将来の夢や目標を持っている」の肯定（「当てはまる」43.3%）や、「人の役に立つ人間になりたい」への「当てはまる」（74.4%）も非常に高く、自尊感情と高い志を併せ持っています。

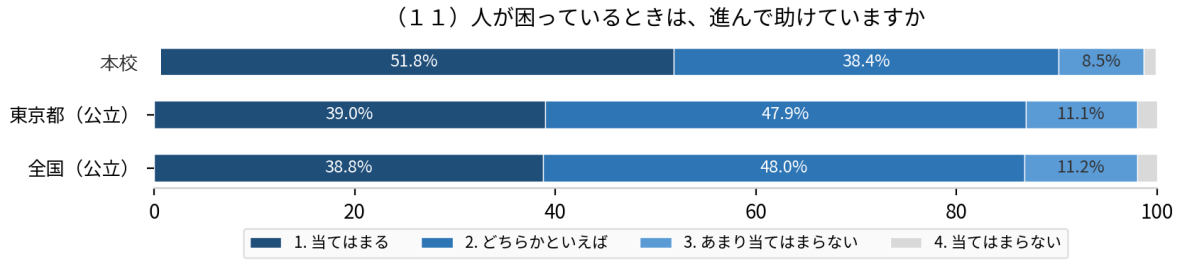
③ 人間関係について

友人関係の満足度、他者支援の姿勢、学校の大人への相談しやすさ、学級の雰囲気についての回答結果です。

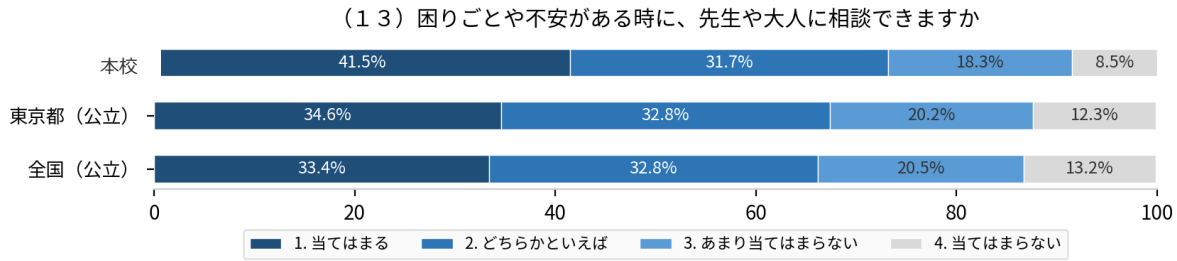
○ 友達関係に満足していますか



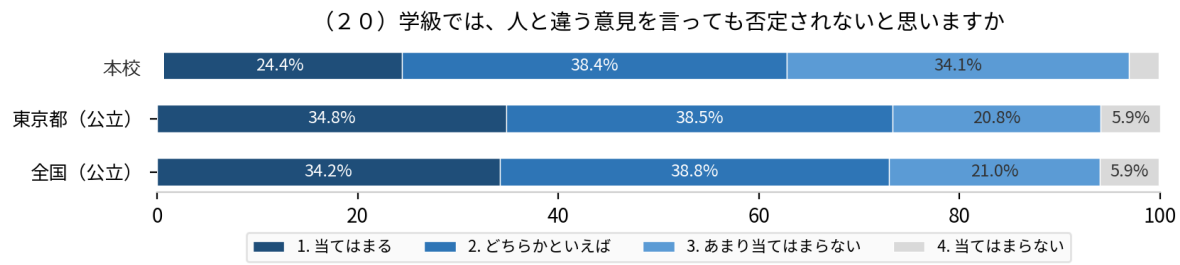
○ 人が困っているときは、進んで助けていますか



○ 困りごとや不安がある時に、先生や学校の大人に相談できますか



○ 学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか



【分析】

○ 人間関係への満足と助け合い：「友達関係に満足している」割合（「当てはまる」64.6%）や「困っている人を進んで助ける」割合（「当てはまる」51.8%）は、都・全国平均を大きく上回り、生徒同士の温かい人間関係が形成されています。

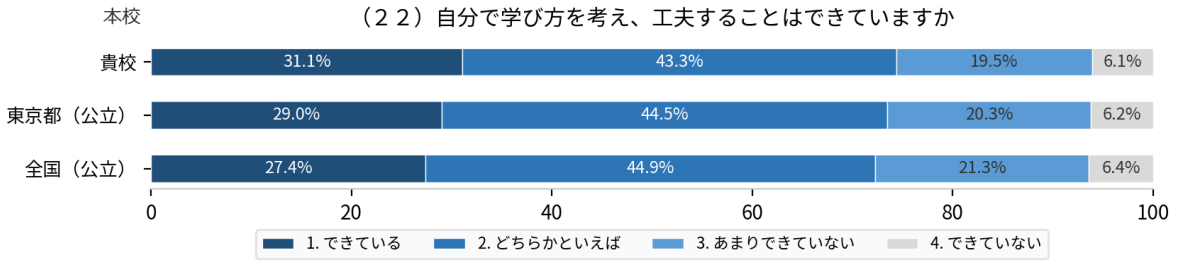
○ 先生・大人への相談可能性：「困りごとや不安がある時に大人に相談できる」に関しても、「当てはまる」が 41.5%（都: 34.6%, 全国: 33.4%）と高く、学校全体のセーフティネット機能が働いています。

○ 学級内での異論受容の課題：「人と違う意見を言っても否定されないと思う」において、「当てはまる」の割合が 24.4%（都: 34.8%, 全国: 34.2%）にとどまり、「どちらともいえない」が 34.1%見られます。多様な意見を尊重し安心して発言できる学級風土づくりが今後の重点課題となります。

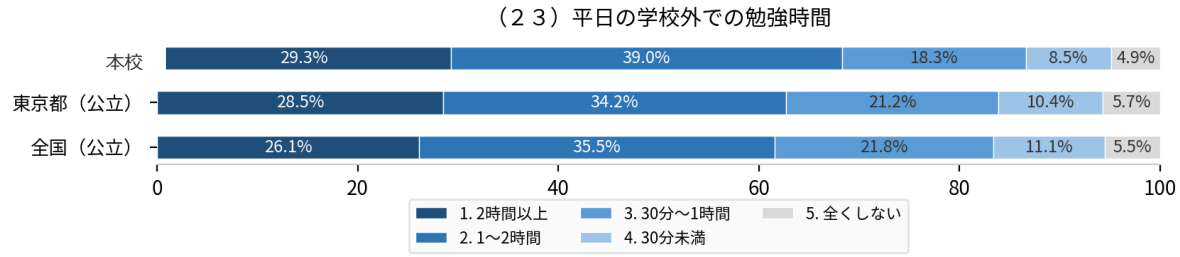
④ 学習習慣について

主体的な学習の工夫、平日および休日の家庭学習時間、読書時間についての回答結果です。

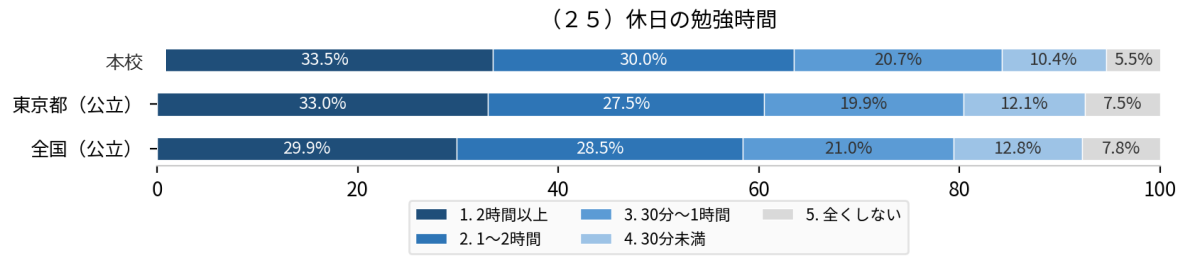
○ 自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



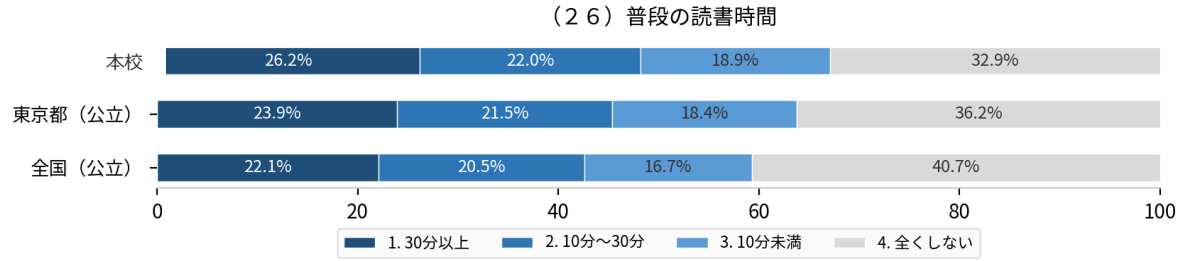
○ 平日の学校外での勉強時間



○ 休日の勉強時間



○ 普段の読書時間



【分析】

○ 主体的な学びの工夫：「自分で学び方を考え工夫できている」割合は「できている」が 31.1%で、東京都（29.0%）および全国（27.4%）を上回り、自主的な学習姿勢が見られます。

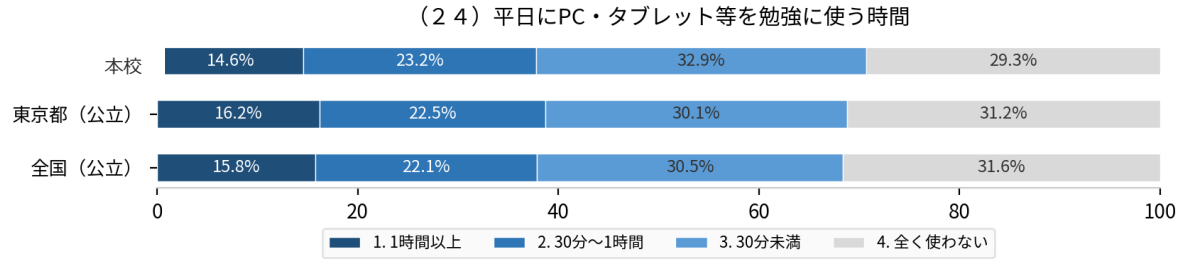
○ 家庭学習の確保：平日に「1 時間以上」勉強する生徒の割合は合計 68.3%であり、全国平均（61.6%）より高く維持されています。休日に関しても「2 時間以上」勉強する生徒が 33.5%（全国: 29.9%）と学習意欲が定着しています。

○読書習慣の傾向：普段読書を「全くしない」生徒の割合は 32.9%であり、東京都（36.2%）や全国（40.7%）と比較して高く、読書に親しむ習慣の定着に課題が見られます。

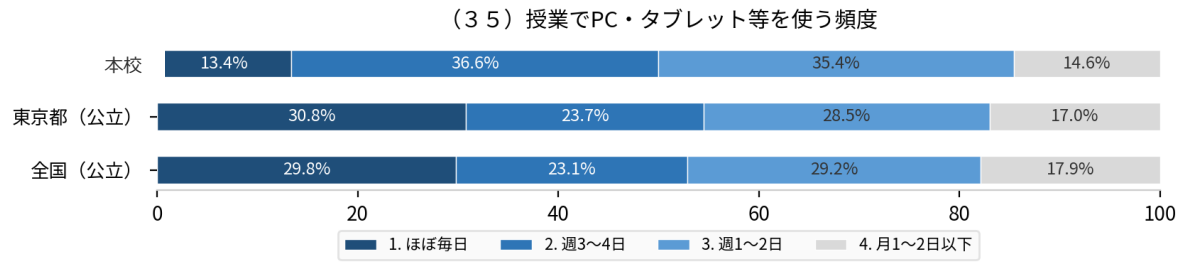
⑤ ICT 機器の活用について

家庭学習での PC・タブレット活用、授業での使用頻度、情報編集・プレゼン活用、総合的な学習での ICT 活用についての回答結果です。

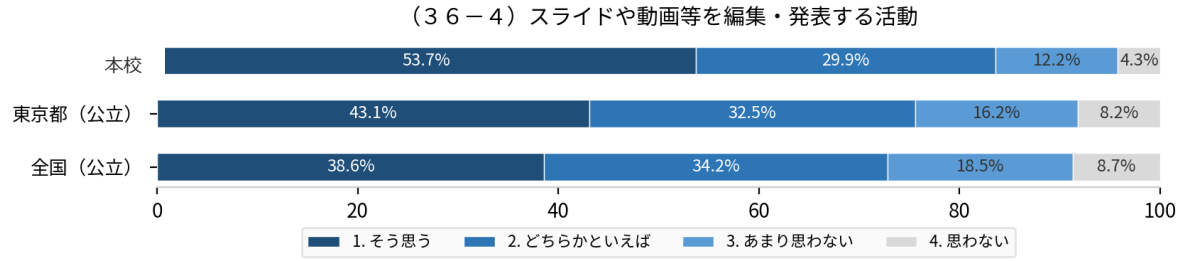
○ 平日に PC・タブレット等を勉強に使う時間



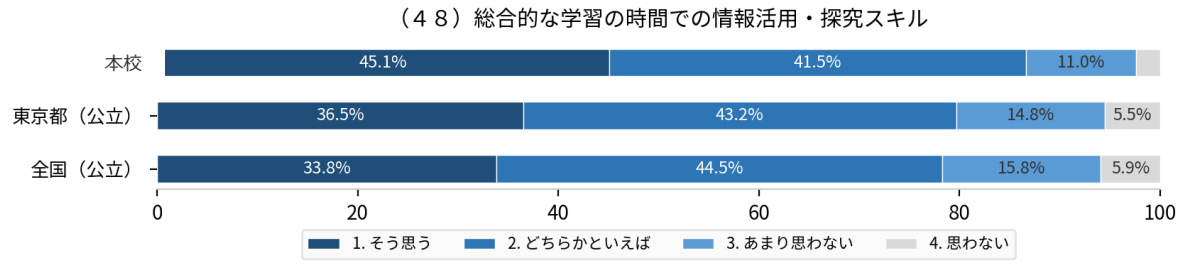
○ 授業で PC・タブレット等を使う頻度



○ スライドや動画等を編集・発表する活動



○ 総合的な学習の時間での情報活用・探究スキル



【分析】

○ ICT 機器（タブレット）を活用した表現力：「スライド等を編集・発表できる」に「そう思う」と答えた生徒が 53.7%（都: 43.1%, 全国: 38.6%）に達し、ICT 機器を活用したアウトプット能力・発信力の高さが見られます。

○ 総合的な学習での探究活用：「総合的な学習の時間での情報活用」についても肯定的回答が 86.6%を占め、課題解決学習での ICT 機器も活用が習慣化しています。

○ 授業および家庭学習での活用頻度の拡大：授業での使用頻度は「週 3 日以上」が 72.0%と高い一 方、「ほぼ毎日」は 13.4%（都: 30.8%）にとどまります。また家庭での勉強目的の利用時間が「30 分未満・使わない」が 62.2%を占めるため、日常的な帯活用やデジタルドリルの家庭学習活用が今後の課題です。

■ 本校の良い点と、今後の指導・支援に向けた改善策

【大泉西中学校の良い点】

1　規則正しい生活習慣（朝食摂取・就寝起きの確立）が根付いている。

2　自己肯定感、教員からの承認実感、将来への目標意識、社会貢献意欲が高い。

3　友人関係の満足度や相互扶助の精神、教員・大人への相談しやすさが充実している。

4　主体的な学習の工夫や学習時間が確保されており、ICT 機器を活用した表現・プレゼンカが高い。

【今後の指導・支援に向けた改善策】

1　学級における多様な意見の尊重：『人と違う意見を言っても否定されない』と感じる安心感をさら に高めるため、対話的で相互承認を重視した授業・学級づくりを推進する。

2　ICT 機器の日常的・発展的な活用：各教科での常用化の推進およびデジタルツールを活用した家庭での自主学習の定着、促進する。